

令和3年11月18日

東伊豆町教育長 横山 尋司 様

東伊豆町学校教育環境整備委員会
会 長 渡 邊 健 司

東伊豆町幼稚園教育環境整備に関する答申

令和3年5月25日付け東伊教第393号により諮問された事項について、当委員会では、計7回の委員会を開催し審議を行いました。その結果を下記のとおり答申します。

記

1 諮問事項

- (1) 東伊豆町における町立幼稚園の規模及び配置の適正化に関する基本的な考え方について
- (2) 東伊豆町における町立幼稚園の規模及び配置の適正化に向けた整備等具体的な方策について

2 答 申

東伊豆町の幼稚園教育における現状と課題を分析し、検討を行った結果、当町の幼稚園教育環境整備は、次のように考え、進めていくことが望ましいとの結論に至った。

* 諮問事項（1）基本的な考え方について

- 幼稚園教育は、一定の人数が確保された環境で、子供たちの関わり合いを重視した教育を進めることが大切である。現状の幼稚園規模は、園児数の減少が進み、適正とは言い難い。
- 町立幼稚園規模の適正化を図るとともに、今日的課題に対応するため、園児数の確保と教職員の集中配置が必要である。

* 諮問事項（2）整備等具体的な方策について

- 町立幼稚園は、現在の2園を1園に統合することが望ましい。入園児数の減少を考えると、早急な対応が必要である。令和5年4月を開園目標とすることが望ましい。新たな幼稚園の場所は、施設の状況や町内各所からの通園距離等を考慮し、現在の熱川幼稚園とすることが適切である。
- 統合による教職員の集中配置により、さらに幼稚園教育の充実を図り、加えて、給食の実施や保育時間の延長などの教育課題改善を図りたい。

3 答申に当たって

平成 29 年の東伊豆町学校教育環境整備委員会答申では、「幼稚園はできる限り現状を維持する」との検討結果であった。その後、2 園体制で幼稚園教育の充実に取り組んできたが、幼児教育無償化の影響で保育園への入園希望が多くなったこともあり、幼稚園の入園児減少が加速した。このような状況を踏まえ、本委員会では、これからの東伊豆町立幼稚園の在り方についての現状と課題の分析、検討を行った。

園児数の減少による幼稚園の在り方が重要なテーマであったが、議論を進める中で、より魅力的な幼稚園とするために 1 園とする環境整備を行うべきであるという意見が多く出された。

本答申書では、諮問内容を受けての検討結果を町立幼稚園の現状と課題から順に整理して述べるが、望ましい幼稚園の方向性として大事にしたいと考えたのは、「子供の数が減少したから統合」ではなく、「よりよい新たな幼稚園教育環境を整備するための統合」である。

(1) 町立幼稚園の現状と課題

① 園児数の推移

町立幼稚園の園児数は、3 年保育となった平成 14 年度以降の統計では、同年度の 4 園 343 名から徐々に減少している。平成 20 年に双葉幼稚園と熱川幼稚園の統合、平成 30 年に大川幼稚園と熱川幼稚園の統合を経て、令和 3 年度は 2 園の在園児合計が 54 名となった。

特に、稲取幼稚園の令和 3 年度入園児は 1 名となり、年少・年中合わせた 5 名を 1 名の教諭が担任するという、複式学級の体制で運営している。来年度以降の入園児数は大きく増えることが見込めず、町立幼稚園全体の園児数はさらに減少することが予想されている。

町立幼稚園園児数推移 (平成 20 年度以降)

園名	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
大川	11	7	7	4	12	10	9	5	5	4	熱幼と統合			
熱川	※1 97	78	66	63	60	52	50	48	49	50	※2 54	53	43	37
稲取	107	105	105	92	83	70	70	61	56	54	43	42	29	17
合計	215	190	178	159	155	132	129	114	110	108	97	95	72	54

※1… H20に双葉幼稚園と熱川幼稚園が統合し、熱川幼稚園となった。

※2… H30に大川幼稚園と熱川幼稚園が統合し、熱川幼稚園となった。

② 幼稚園施設の状況

稲取幼稚園は昭和 55 年に建設され、築 41 年の施設である。園舎・園庭が広く、2 階建てで教室数やスペースの余裕があることから、教育活動の工夫をしやすい利点がある。令和 2 年度に屋上防水工事を行うなど施設維持に努めている

るが、園舎の年数経過による今後の維持管理に課題がある。また、園周辺には観光・商業施設があり交通量が多いことや、園入口付近が狭いことから、通園時の安全確保に課題がある。

熱川幼稚園は、平成20年に建設された築13年の施設である。門のリモート施錠などセキュリティ設備が充実し、周辺の交通量、園前のスペースと合わせて安全面での利点がある。町立図書館や熱川小学校に隣接していることから、図書館との連携や小学校との交流活動がしやすい立地環境といえる。平屋で園児が園庭活動をしやすいオープンな造りであるが、日差しを遮る樹木が少ないことや、風雨が吹き込みやすいなど、教育運営上の課題もある。

町立幼稚園施設概要

園名	園舎	園舎面積	運動場面積	建築年	大規模改修等
熱川	鉄骨造 平屋建	1,216㎡	1,010㎡	平成20年	
稲取	鉄筋コンクリート 2階建	1,586㎡	1,642㎡	昭和55年	H23大規模改修 R2屋上防水工事

③ 町立幼稚園の課題

幼稚園保護者からの要望として給食の実施を求める声が強くなり、教育委員会では、給食実施の方向で検討を進めている。しかし、給食センターからの運搬方法と職員の確保、配膳時の職員対応などの課題を解決する必要がある。

また、保育時間の延長についても要望が強い。現段階では、半日保育の日を少なくしたことや、長期休業中の預かり保育時間を延長するなどの対応をしているが、まだ仕事を持つ保護者の希望する時間延長とはなっていない。

両幼稚園保護者アンケートでは以下のような意見が出され、給食実施や保育時間延長の要望は非常に強いものがある。

幼稚園保護者アンケート意見（令和3年度）※一部抜粋

- ・保護者の負担軽減のために給食を導入してほしい。
- ・小学校でスムーズに給食に適応できるように、幼稚園での給食を実施してほしい。
- ・給食になれば園児が増えるのではないかな。
- ・共働きの家庭が多く、夫婦で協力しても現在の登園時間では厳しい。
- ・仕事を持っている人が多いので、保育時間を延ばすことで入園希望者が増えたら嬉しい。

(2) 適正規模・適正配置について

幼稚園の適正規模は、小中学校のように国による基準等は定められていないが、全国幼児教育研究会「幼児集団の形成過程と協同性の育ちに関する研究」によると、一人一人の幼児への個別の対応が求められる「個に応じた援助」を行い、集

団の形成過程を大切に「協同性の育ち」を培うためには、1学級に3歳児で20人前後、4・5歳児は21人以上30人くらいの集団が適切だと考えられるとの研究結果が示されている。

東伊豆町の園児数の現状と今後の推移予測では、各幼稚園とも、適正と考えられる園児数の確保が非常に難しい状況である。

町立幼稚園児数 (令和3年4月1日現在)

幼稚園名	3歳児	4歳児	5歳児	合計
熱川	13	8	16	37
稲取	1	4	12	17
合計	14	12	28	54

(3) 今後の町立幼稚園の在り方について

① 幼稚園教育の目標

学校教育法22条には、幼稚園教育の目標として、「幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする」と示されている。目的達成のためには、学校教育法23条第2号に、「集団生活を通じて、喜んでこれに参加する態度を養うとともに家族や身近な人への信頼感を深め、自主、自立及び共同の精神並びに規範意識の芽生えを養うこと」とある。幼稚園教育の目的達成のためには、前述の研究調査にもあるように、一定の集団規模が必要となる。

また、東伊豆町の幼稚園教育方針として、遊びや体験活動を通じた総合的な指導を行う中で、人を思いやる心と集団生活における基本ルールを身に付けさせることと、協同する経験や関わりを重ね、規範意識の芽生えを培うことを目指している。その具現には、やはり、一定の集団規模が必要であると考えられる。

② 町立幼稚園の役割

平成30年4月より施行された幼稚園教育要領では、「幼児期に育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示され、小学校以降の生活や学習の基礎を培う「学校教育のはじまり」としての役割を担う質の高い教育が求められている。

東伊豆町の幼稚園では、賀茂地区幼児教育アドバイザー指導を受けての研修など、幼稚園教諭の研修会を定例的に開催し、町内幼稚園教育の向上に努めてきた。アドバイザーからは、東伊豆町の幼稚園教育研修に対し高い評価を得ている。

また、小学校との連携した研修も積極的に行い、園児・児童の交流を進めるなど、学校教育へつながる大変重要な役割を果たしている。

さらに、保護者から、幼稚園と保育園のそれぞれの教育のよさを選択できる

幼児教育環境を求める意見もあり、町として幼稚園教育を維持・推進していくことは、保護者の選択肢と公的な教育を保証するという観点から重要であると思われる。

なお、保護者の選択肢としての町立幼稚園教育を進めるに当たっては、幼稚園教育についての理解を深めるよう、これまで以上に保護者・町民にアピールしていく努力も必要である。

③ 望ましい幼稚園の在り方

年少・年中園児が合わせて5名となり、複式学級経営を行っている稲取幼稚園では、今後も入園児の大幅な増加は見込めない。また、熱川幼稚園も年々入園児数が減少している。このまま、町内に2つの幼稚園を維持することは、前述した幼稚園の役割を考慮すると、町立幼稚園として適正な運営状況とは言えない。幼稚園教育を維持・推進していくための方策として、2園を統合して1園とすることが望ましい。

また、2つの園の教職員を1園に集約して配置することで、研修を受講する機会が得やすいなど、さらに職員の資質向上につながることを期待できる。

入園児数の減少に対する方策としての統合は、やむを得ない方向であるが、2園を1園にすることによって、よりよい教育環境にすることが望ましい幼稚園の在り方である。これまで対応できていなかった給食の実施や保育時間の延長なども含めた、魅力的な幼稚園教育環境とするための統合としたい。

④ 望ましい施設整備について

統合して1園とするためには、用地を確保しての新園舎建設は現実的ではないため、どちらの幼稚園施設を使用するかが問題となる。委員による両幼稚園の視察を行い、現状と立地状況等を検討した結果、園舎がより新しく、セキュリティ設備面、周囲の交通状況等の安全面、町立図書館や小学校との連携・交流のしやすさという教育環境面において利点があることや、町内各所からの通園距離等を考慮すると、熱川幼稚園を活用することが適切であるとの結論に達した。

ただ、現在の熱川幼稚園は、日差しを遮る樹木が少ないことや、風雨や砂が廊下等に吹き込みやすいなど、施設上の課題もあるため、改善の方策を検討し、教育環境をさらに整備する必要がある。

4 付帯事項

幼稚園の統合に当たっては、保護者・地域の十分な理解を得ることが大切である。園児数が減少したからというだけではなく、幼稚園教育全体をより良くしていく前向きな統合であるという説明とともに、丁寧な意見聴取と準備を進めたい。また、統合前の両園の園児・保護者の交流についても、計画的に交流活動を実施、充実させ、スムーズな統合となるようにしたい。

加えて、安全な通園のための幼稚園バス運行環境の充実や施設設備の改修など、町として幼稚園教育環境改善にかかる予算確保を図って進めていくことを強く求めたい。

5 学校教育環境整備委員会の概要と開催状況

名 称	東伊豆町学校教育環境整備委員会
目 的	未来を担う子供たちのために、東伊豆町の教育環境の在り方について検討し、町全体としての方向性を示す答申を行い、東伊豆町の教育環境の改善に寄与すること。
諮問事項	<ul style="list-style-type: none"> ・東伊豆町における町立幼稚園の規模及び配置の適正化に関する基本的な考え方について ・東伊豆町における町立幼稚園の規模及び配置の適正化に向けた整備等具体的な方策について
組 織	幼稚園の保護者代表、幼稚園長、小中校長代表、区長会代表（地域住民代表）及び学識経験者の 11 名で組織した。

開 催 日	回 数	主な検討事項
令和 3 年 5 月 25 日	第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・東伊豆町における幼稚園教育の在り方について ・東伊豆町幼稚園教育の現状と課題
令和 3 年 6 月 23 日	第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・町立幼稚園視察 ・幼稚園教育の現状について
令和 3 年 7 月 20 日	第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園視察の感想等 ・東伊豆町における幼稚園教育の在り方について協議、検討
令和 3 年 8 月 19 日	第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・東伊豆町における幼稚園教育の在り方について協議、検討
令和 3 年 9 月 13 日		<ul style="list-style-type: none"> ・熱川幼稚園・稲取幼稚園 P T A 交流会の傍聴
令和 3 年 9 月 29 日	第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・東伊豆町における幼稚園教育の在り方について協議、検討
令和 3 年 10 月 19 日	第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・東伊豆町における幼稚園教育の在り方について（答申案の検討）
令和 3 年 11 月 11 日	第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・答申書の検討と決定
令和 3 年 11 月 18 日	—	◎東伊豆町教育委員会に対する答申